

最北の越前えちぜん狛犬こま

先日、福井市などに「越前狛犬」とその素材「笏谷石しやくたにし」を見に行ってきました。
越前狛犬とは江戸時代、福井市の足羽山あすわやまでしか採れない笏谷石で作られた小型の狛犬で、オカッパ頭のような独特の髪型が大きな特徴です。



浜益神社の越前狛犬(高さ26cm)



石狩弁天社の越前狛犬(高さ25cm)

この狛犬は、航海が無事行われたことなどのお礼で寄港地の神社に奉納され、今も日本海側を中心に島根県から北海道まで点々と残っています。ただ、北海道で現存しているものは上ノ国町の上ノ國八幡宮、石狩市の石狩弁天社と浜益神社でしか確認されておりません。

したがって、浜益神社にある狛犬が最北にある越前狛犬ということになります。
浜益神社の狛犬の由来はよく分かっていませんが、この神社の前身の稲荷神社が運上屋付近



越前狛犬(敦賀市)



こんな越前狛犬も(敦賀市)

の弁天社にあった可能性が高いと考えられています。ですので、この狛犬は福井市から九頭竜川をくだり、三国港から北に向かう船に積み込まれ、浜益まで長い旅をしてきた狛犬ということになります。
なお、この狛犬に使われている笏谷石は「青手」で、当時は高価で最上とされていたものです。

(学芸協力員 石橋孝夫)



いろいろな色・質の笏谷石(福井市内)



青手に近い笏谷石(足羽山)



石狩市学芸協力員
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。